

日本の職人と共に創りだす時代にあった新しい「お仏壇」

株式会社 佐倉幸保商店 さくらゆきやす 和歌山県和歌山市

■職人の丁寧な姿勢から気づいた家業への思い

創業130年の歴史を誇る株式会社佐倉幸保商店「おぶつだんの佐倉」は、大阪難波で金箔職人をしてきた五代目佐倉幸保氏（現社長、佐倉浩徳ひろのり氏の祖父）が第二次世界大戦の戦火を逃れるために和歌山に疎開した事から始まる。当初は、仏壇の修理や製造、寺の仏具の修復などを手掛けていたがその後、販売店兼工場を建設し、株式会社として法人化した。六代目の佐倉弘氏（現社長の父）に引き継がれ、現在の和歌山市広瀬通丁に移転。2014年、現在の社長である七代目佐倉浩徳氏にバトンが渡された。

祖父も父親も金箔職人という職人の家系で育った佐倉社長は、大学卒業後、仏具や線香を扱う東京の商社に就職した。「営業をしていた頃、様々な技術を持つ多くの職人達と知り合う機会があった。職人が1つ1つ丁寧に作り出す姿勢を見て、自分自身の父や祖父も職人として同じように相手を思い、丁寧に取り組んでいたことに気づいた。仏壇は亡くなった両親や身近な人を祀るためのものであり、その意味と職人の思いが理解でき、このことが実家（家業）の事を考えるきっかけになった」と佐倉社長は振り返る。

■時代とともに仏壇をより身近なものに

佐倉社長は「この50年間大きな変化のなかった奇跡のような業界だったが、この2~3年で急激に変化した」と話す。戸建からマンションへ引越す人が増えたため、これまでの大きな仏壇を処分し小さな仏壇へ買い替える人が増えたこと。将来仏壇を引き継ぐ若い世代が大きさやデザインを決める傾向が増え、家族みんなで来店する光景をよく目にするようになったこと。最近では、仏壇を「ご両親や身近な人」を祀る場として捉える人が増え、和室や仏間に仏壇を置くのではなく、リビングや寝室などより身近な場所に置く家庭が増え

たことなどだ。

■日本の職人と共に「祈り」の文化を発信する

こだわるのは、日本の環境や文化を理解している日本の職人との仕事だ。日本の職人は、仏壇を単なる物ではなく「祈りの場」として捉えるため、その思いを共有できるからだ。またSNSを利用し、全国とつながることで、これまで知らなかった職人や商品と出会う機会が増えた。

現在、自社ECサイトの開設に向けて準備を進めており、同サイトでは職人が製作したこだわりの仏具などを販売する予定。「これまでは、腕が良いが残念ながら世間にあまり知られていない職人や技術がたくさんあった。そんな現状を職人、店、販売員が一緒になって考え、新たな商品を全国へどんどん発信していきたい」と佐倉社長の夢は広がっていく。

（村井 渚、八木陽子）



米ぬかで作られた「お米のろうそく」。誤って口に入れても安全



リビングに合う新しいスタイルの仏壇



人気家具メーカー「カリモク家具(株)」の仏壇。近畿地方では同社のみ取扱う

株式会社佐倉幸保商店

〒640-8113
和歌山市広瀬通丁2-26
TEL: 073-425-5555
FAX: 073-425-5557
URL: <https://www.sakura-butudan.co.jp/>



佐倉浩徳 社長